

(5) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

結果の概要

平成 24 年は計 21 件の赤潮が確認された。月別ののべ件数では 3 月から発生が確認されたが、月々の発生件数は例年並であった。発生期間別にみると 5 日以内の短い赤潮が 13 件と発生件数の半数以上を占めた。種類別内訳としては珪藻類の *Skeletonema* spp. が 9 件と最も多かった。魚介類に被害をもたらす種類による赤潮は *Heterosigma akashiwo* によるものが 1 件発生したが、漁業被害はなかった。

調査方法

1. 調査定点

大阪湾全域 20 定点（浅海定線調査に準じる）、もしくは東部海域 14 定点（水質監視調査に準じる）

2. 調査期間と調査回数

2012 年 1 月～2012 年 12 月について、貝毒警戒時期である 2 月～4 月、赤潮多発期である 5～9 月は概ね週 1 回、それ以外の月は月 2 回

3. 調査項目

水色、透明度、プランクトン細胞数等

4. 調査船

漁業調査船「おおさか」（28 トン、1009 馬力×2 基）

調査結果

表 1、2、3、4 のとおり。

担当者

山本圭吾

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	13	4	4	0	21
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	0	0

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	0	0	1	2	2	3	3	4	4	2	1	1
うち前月より継続した件数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)月にまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種名	発生件数 (件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	9
2	<i>Chaetoceros</i> spp.	7
3	<i>Thalassiosira</i> spp.	5
4	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	4
5	<i>Leptocylindrus</i> spp.	4
6	<i>Myrionecta rubra</i>	2
7	<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	1
8	<i>Heterosigma akashiwo</i>	1
9	<i>Noctiluca scintillans</i>	1
10		
11		
12		
計		34

(注 1) 最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注 2) 複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表 4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理 番号	被害 時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度 (cells/ml)
		被害なし				